

XLOOKUP関数

使い方マスターガイド



※当ガイドに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。

VLOOKUP vs XLOOKUP 決定的な違い

VLOOKUP vs XLOOKUP 決定的な違い

XLOOKUPは、VLOOKUPの弱点をすべて克服した「上位互換」の関数です。（Excel 2021 / Microsoft 365 で利用可能）

特徴	VLOOKUP関数	XLOOKUP関数
検索方向	左端の列から右側のみ	左右どちらでも検索可能
列の指定	「3」のように番号を数える	列（範囲）を選択するだけ
エラー処理	IFERROR関数が必要	標準機能で設定可能
挿入への耐性	列を挿入するとズレる	列を挿入してもズレない

結論：使える環境なら、今すぐ XLOOKUPに切り替えるべきです。

XLOOKUP関数の基本構文（たった3つ）

XLOOKUP関数の基本構文（たった3つ）

引数（設定項目）は多いですが、実際にデータ検索を行う上で必須なのは最初の3つだけです。これだけで動きます。

=XLOOKUP(検索値, 検索範囲, 戻り範囲, [見つからない場合], ...)

必須	引数	内容
○	① 検索値	何を探すか。（例：商品コード）
○	② 検索範囲	どこから探すか。（例：コードの列 A:A ）
○	③ 戻り配列	何を取り出すか。（例：商品名の列 C:C ）
△	④ 見つからない場合	エラー時に表示する文字。（例：" なし "）

 **ポイント**：VLOOKUPのように「範囲全体を選択して、列番号を数える」必要はありません。「探す列」と「欲しい列」をそれぞれ選ぶだけです。

【メリット①】
「左側」のデータを検索できる

【メリット①】 「左側」のデータを検索できる

VLOOKUP最大の弱点、「検索値より左側のデータは取れない」問題も、XLOOKUPなら引数の指定方法によって解決します。

シナリオ： C列の「商品名」から、A列の「商品 ID」を左方向へ逆引きしたい。

数式： `=XLOOKUP(D2, C:C, A:A)`

解説：

検索値：

1. D2(探したい商品名)
1. 検索範囲：C列(商品名の一覧)
1. 戻り範囲：A列(商品 IDの一覧)

→ **順序を気にする必要なし！** それぞれの列を指定するだけで、左右関係なくデータを抽出できます。

【メリット②】 IFERROR関数が不要になる

【メリット②】IFERROR関数が不要になる

データが見つからない時の「#N/A」エラー。これまでは IFERROR 関数でVLOOKUPを囲んで「該当なし」などの文字列を返していましたが、エラー処理機能を内蔵するXLOOKUPならその手間も不要です。

シナリオ： 検索値が見つからない場合、「該当なし」と表示したい。

数式： `=XLOOKUP(A2, D:D, E:E, "該当なし")`

解説：

- 第4引数に、エラー時の表示内容 ("該当なし") を指定するだけ。
- 数式がシンプルになり、修正も簡単になります。

【免責】

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。

※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。また当資料は、公開日時点の内容となっております。最新の情報、実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。